

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	LICGROW 八千代緑が丘駅前教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 27日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～ 2026年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性や成長に応じた活動をしています。また、保護者の様々な困り事に寄り添う事を大切にしています。感覚統合療育を取り入れています。子どもが学校での集団行動を日々楽しく過ごせるように、個別活動や集団活動をおこなっています。	「遊びを学びに変える」をテーマに楽しく活動しながら、子どもの成長につなげる療育活動を行います。感覚統合療育を取り入れ、集団活動では、指導員のルールを聞いて理解し友達と楽しく活動する、情緒面を安定させる。個別活動ではビジョントレーニング等、学習に役立つ机上活動を行います。コミュニケーション力を高める小集団活動では子どもの自律心を養い	理学療法士の専門的な視点から、指導員のスキルを高めるミーティングを実施しています。療育に対する意見交換を日々実施し、子ども一人ひとりの成長に着目。成長に合わせて柔軟に療育着目点を変化させます。子どもの成長(変化)にどれだけ目を向けられるか。また、子どもに対して『指導』ではなく『コミュニケーション』を重視して
2	子どもは家庭や学校、教室を通じて日々生活しています。その中で様々な課題が発生し、夫々の指摘や指導を受けます。子どもに関係する夫々が違う事を伝えると子どもは困惑します。連携し、子どもにとって良い環境を作る事が重要だと考え活動しています。	「保護者との二人三脚」をテーマに、同じ方向を見て取組みできるようにしています。学校とのミーティング、相談員との情報共有、保護者との面談を要望に応じておこなっています。子どもの変化や保護者の小さな困り事に対して『いつでも、どこでも、安心して』をコンセプトに面談をおこなっています。LineやHUG等の情報システムを活用してい	26年度は保護者に向けた取組みを強化します。保護者の困り事に役立つ活動をしていきます。『療育に関する考え方の提供』『同じ困りごとをもつ保護者同士の情報共有』『指導員とのコミュニケーション強化』を進めていきます。
3	子どもに個性があるように、様々な活動を通じて好きな事を見つける活動をおこないます。子どもの将来に向けた可能性を広げていきます。	「体験活動」を毎月取り入れています。『牧場訪問』『工場見学』『プラネタリウム』『焼きそば等料理教室』『体操教室』などをおこないました。季節を感じる製作活動や長期休暇では『夏祭り』をおこない、家族と一緒に参加してもらいました。	子どもからの提案を通じて体験活動を充実します。実施した『卒業旅行(日帰り)』では訪問先や当日のスケジュールを子ども達で決めました。子ども達が好きな事を自分で発見し、活動につなげていければと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	感覚統合療育に対して更なる知識習得と経験の積み重ね	指導員全員が感覚統合基礎研修を受講し、25年度から療育活動に取り組んできました。26年度は指導員のスキルを更に高める必要があります。	感覚統合応用研修を受講し知識を高めます。活動プログラム一つひとつの目的を明確にする事により療育活動の質を高めます。
2	保護者に向けた取組みの充実	25年度は子どもに向けた活動を中心に、保護者に向けた活動を2番めにおこなってきました。まだまだ保護者に向けた活動が必要だと考えています。	保護者に対し、『療育に関する考え方の提供』『同じ困りごとをもつ保護者同士の情報共有』『指導員とのコミュニケーション強化』を進めていきます。
3	学校や相談員との連携強化	教室外部との取組みを強化する為の人的時間がまだまだ不足しています。教室内部での活動は充実してきましたが、次のステップに進む必要があります。	25年度に作った「学校や相談員と関係」を活用して対象となる子どもを増やしていきます。外部に向けた活動を増やすために、仕事内容を見直し、必要な指導員の充足を進めます。